

婦人と子ども

大正五年十月五日
第十六卷 第十號

子供に還る

早蕨幼稚園長 久留島 武彦

▲夫は小をかねるの諺が、近頃は小は大の始りと代つて、すべての發足點が子供の上に置かれる事となつたのは、誠に愉快な事實であります。

▲いろいろな子供の仕事に關係して居りますと、近來はまた著しく右の事實が認められます、昨日も斯道會の田邊氏が見へて、今回全國の天理教々會所でも毎日曜日には教會所を子供のために開放して其の安全な遊戯所たらしめたい、夫に付ては子供の扱ひ方、設備等に關する心付きを話して貰いたいと云ふ事であつた。

▲また斯云ふ事實もある、先年から農商務省の保

護金を受けて國產獎勵會と云ふものが出來て居る、これは其の名の如く國產品の増加、使用の獎勵で一面には製造家に一面には需用者に對す獎勵運動を任として居るのだが此の獎勵會が八月から何を始めたかと申すと「小學兒童」と云ふ雜誌の發刊であります。その事に就て主幹の杉氏と云ふが來訪されての事に、今日の事到底根底を子供と云ふ者の上に置かぬと永續の生命をもたぬ。

▲子供の時に入れた魂ほど抜け難いものは無く子供の時に据へられた礎ほど根強いものは無いと云ふところから、今回會の方でも子供に向つて先づ

國産獎勵の精神を吹込む計畫を立てたのだと云ふお話であつた。

▲淨土宗が四五年前宗教務規定で自今以後寺院は毎日曜日子供のために本堂を開放して日曜學校を開設せよと云つたやうな事になつたが昨年からは亦西本願寺が門末寺院に對し毎日曜日子供の爲に計る事を布達し、現に今年の夏は京都で特に其目的の爲に講習會迄開かれたのでありました。

▲逝く人を送り迷へる者を化導する寺院までか先づ來らんとする者を迎へて其の第一歩より迷はざるやう訓導せんと計畫するやうになつた事は理詰より押詰めれば當然の考であります、在來の世間相より觀れば驚くべき變化と申さねばなりません。

▲避暑地の盛衰、海水浴場の繁閑までが子供の進退によりて定められるやうになつて來た傾向を考へて見ますと社會は強き者から弱き者に、大きい者から小さい者に漸く着眼の基礎を變て來た事が

著しく認められるやうになりました。

▲社會は確に子供に立還りつゝあるものであります二十世紀は子供の世界と云つたエレン、ケー女史の豫言の通りに宗教も、工藝も、軍事も、演劇も、子供に基礎を置く事を競つて居ります世の中に尤も先づ認むべき繪畫とことに音楽が一向まだ眼の覺めぬのは如何云ふものでありませうか。

▲職に保育の道にあるお互は今日程自重自奮せなければならぬ、秋はありますまい、諸嬢は子供部屋の設備に就て相談をお受けになつた事はありませんか、子供の玩具繪本なり撰擇について意見を求められた事はありますか、子供の取扱ひ方に就て指導を求められた事はありますか、而て是に就て日日何の位の準備をなして居られますか▲兩手を背後に組んで立つて居るやうな心掛けでは社會が覺醒するだけだけお互は落伍する者と考へねばなりません、社會が子供に還へるより先づ吾が保育界が子供に還へるべき必要はありますまいか御一考を煩はす。